

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 5月えんだより

5月の聖句 「わたしは良い羊飼いである」

ヨハネによる福音書10章11節

桜の花も地にかえり、暖かな春の日が続いています。ご入園、ご進級から、はや一ヶ月が経ちましたが、新しい生活や環境には、慣れてきましたでしょうか？環境に適応していくには各々のリズムがあります。お仕事を復帰される保護者の皆様も新たな生活の始まりになりますので、心身の体調にはくれぐれもお気をつけください。

さて、子供達が新しい環境に慣れていくには「許容されること」「ここにいて安心すること」が大切です。当たり前のことですが、自分の名前を呼ばれて、自分のことを理解してもらえて、受けとめられていることを実感できるほど心地よいことはありません。「この人は、私を理解してくれている」と思える人がいれば、無言の励ましを受け、失敗しても立ち直ることができます。親子であれ、上司であれ、夫婦であれ、私たちは自分を一人の人間として、かけがえのない存在として理解してもらいたいというのが本質ではないでしょうか。

今月の聖句にあります「羊」は群れをなして生きています。目が見えにくく、臆病な性格である羊は、集団から離れないようにしなければ、自らの命を狙われる恐れがあります。ゆえに夜になっても、夜通し羊の番をする羊飼いが必要なのです。羊飼いは、羊の餌を求めて山を越えて危険を共にし、命がけで外敵から守るのです。良い羊飼いは、一匹一匹の羊の名前を呼び、その性格を知り、動きも把握しています。聖句では、このあとに「良い羊飼いは、羊のために命を捨てる」と続きます。神様はそうした羊飼いに例えられた存在であり、私たちが愛し導いてくださるのです。

没後60年を過ぎますが、私どもと同じYMCA職員であり、宣教師であったディーン・リーパー氏は、北海道での会議の際に、青函連絡船「洞爺丸」に乗り、沈没事故により33歳の生涯を遂げたのでした。沈んでいく船の中では、仲間と共に励ましあい、最後の一緒に乗船していた子供に仲間の宣教師と共に救命胴衣を渡して、神様の元に召されたのでした。神様の愛とは、このように「命がけ」のことなのであり、「愛する」という言葉以上の信仰や願い、思いがないと成し得ないことであると伝えられてきました。一人ひとりの子供達の名を呼び、神様、イエス様が羊飼いに例えられるように、今日出会う一人ひとりの存在をしっかりと心にとめていきましょう。

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	なんだろう	感じる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>* まわりに目を向け、手を伸ばす。</li> <li>* 園生活や保育者に慣れ、安心して過ごす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 聖書の話や讃美歌に親しむ。</li> <li>* まわりに人々、社会、世界の出来事にも目を向けて恵みを分かち合う。</li> <li>* 友だちや遊びの中で心を動かし、自ら関わろうとして一歩踏み出す。</li> </ul>
讃美歌	ことりたちは こども改10	ちいさなはなが 幼児さんびかII 6